資料4

これまで部会で提出された主な意見とその中間整理案（案）への反映状況

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
1	1．めざす将来の姿	全体	第３回	【内容】 全体的に幅広く網羅的されれているが、ある程度絞り込みも必要ではないか。 例えば、仕事と家庭の両立などは、福島県としてしっかり根付かせていくべきではないか。	めざす将来の姿については、ある程度網羅的に記載せざるを得ない。第5章では具体的な施策を記載した。 仕事と家庭の両立については、【礎】（人と地域）の「子どもたちが心豊かにたくましく育つ社会」で「仕事と生活の調和が図られた就業環境」について記載した（p.36）。
2	1．めざす将来の姿	柱立て全体	第３回	全体的に、無理に3つの柱に将来像を押し込めているように感じるところがある。必ずしも3つの柱にこだわらずに整理した方がよいのではないか。	「人・地域」を礎とし、「活力」、「安全・安心」、「思いやり」の3本をこの上に置いた。
3	1．めざす将来の姿	将来の姿と基本姿勢との関係性	第４回	【関係の明確化】 3つの基本姿勢は、ふくしまの底力的なものとして、めざす将来の姿に文章として入れていけばよいのではないか。	第3章の総論部分で、3つの基本姿勢を踏まえて施策を展開する旨記載する（p.46、47）とともに、各章の文面には基本姿勢のニュアンスを入れた表現とした（魅力の発信、総合力の発揮、チャレンジ等）。
4	1．めざす将来の姿	各分野間の関係性	第４回	【関係の明確化】 各関連分野相互の関係を図で示してほしい。	第2章の扉の図等（p.29）において、示すこととした。
5	1．めざす将来の姿	キャリア教育の推進	第４回	【位置の変更】 キャリア教育の推進について、進路指導のことを言っているのであれば、実地での体験が大切であり、学校教育ではなく、むしろ産業における人づくりや技能継承にからめて入れた方がよいのではないか。	ご指摘の事項以外にも一つの項目が複数の分野にわたるものが多くあるが、キャリア委教育については、子どもの教育自体が単に学力の育成というだけではなく、就労等その先を見据えた目的意識をもったものであるべきであるという趣旨から、人の「子どもたちが心豊かにたくましく育つ社会」に位置づけることした（p.36、p.48、p.75）。
6	1．めざす将来の姿	力強さにあふれた個性ある地域社会	第４回	【内容の追加】 電源地域（水力、原子力等）の今後の地域づくりをどうするかについて触れるべきではないか。	ご指摘を踏まえ、「魅力と個性にあふれた地域社会」に「個性的で活力に満ちた電源立地地域」として新たに分野を立てた（p.37）。
7	1．めざす将来の姿	文化やスポーツをはじめとした人々が活躍できる場づくり	第４回	【細分野の項目名の修正】 「地域生活のなかで人々が活躍できる場づくり」とした方がよいのではないか。	「文化・スポーツ」については、これまでも、また、今後も県として重点的に取り組む予定であり、子どもと大人を通じた自己実現の在り方として特出しの位置づけにしているため、「文化やスポーツなどによる自己実現の場づくり」とさせていただいた。

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
8	1．めざす将来の姿	活力	第３回	【産業連携のためのプラットフォーム】 あらゆる場面であらゆる産業が連携するためのプラットフォームが必要である。	【礎】（人と地域）の 「人々がはつらつとして活躍する社会」において、学校、企業、自治体、NPOなどの各種民間団体、個人の間で互いの知恵と技術をつなぎあわせることのできる場がいたるところにできる」として記載した（p.36）
9	1．めざす将来の姿	農林水産業の持つ底力の発揮	第３回	【細分野の内容の修正】 多様で経営感覚に優れた多くの担い手により、農地等経済資源をフルに活用するなかで安定的な経営が行われ、安全で高品質かつ多様な農林水産物を生産する一大食料生産基地となり、海外への輸出も盛んになっています。 （理由）広大な耕作放棄地の解消が大きな課題となってきている。	「経営感覚に優れた多様な担い手により、広大な農地・森林等や豊かな水産資源、首都圏との近接性など高いポテンシャルが十分に活用された安定的な経営が行われ・・・」とした（p.38）。
10	1．めざす将来の姿	様々なリスクに対して安全で安心できる社会	第４回	【キーワードの追加】 セーフティネットというキーワードを入れておく必要があるのではないか。	柱Ⅲ「思いやり」において、離職した場合における様々な支援の充実について記載し（p.42）、重点施策の細項目【B3-12】①「離職時における生活再建・再就職支援等の充実」を置いた（p.95～96）。
11	1．めざす将来の姿	一人暮らしの高齢者、ひとり親家庭、ニート、引きこもりに対する支援	第４回	【細項目名の修正】 地域で孤立している人々に対する支援ネットワークの確立	ご指摘を踏まえて「一人暮らしの高齢者など地域で孤立しがちな人々に対する支援ネットワークの確立」と修正した。
12	2．ふくしまの基本方向	過疎・中山間地域を支える地域力の育成	第４回	【内容の追加】 キーワードとして「地域コミュニティの再生」が示されているが、過疎・中山間地域ではないところの集落、町内会など地域の基礎的な力が弱っているので、その辺も十分配慮してまとめてほしい。	「力強さに満ちた地域づくりと分権型社会に対応」に、過疎・中山間地域に限定せず、一般的に地域コミュニティの再生や活性化を進めるとして記載した（p.51）。
13	2．ふくしまの基本方向	七つの生活圏、市町村間を結ぶ交通ネットワークの確保	第４回	【内容の追加】 県内のニュースが観れない状況の地域もあるので、交通ネットワークの確保以外に情報通信基盤の整備も入れてはどうか。	第3章で、「多様な交流ネットワークに支えられた社会」に「交流と連携強化のための基盤づくりと活用」を置き、情報通信技術・基盤の活用・整備について触れた（p.57）。
14	2．ふくしまの基本方向	周産期、小児、救急医療の充実など地域医療の確保	第６回	【取組み内容の表現修正】 （地域医療の格差解消） 地域医療について県内で相当格差が出てきているので、地域医療の格差解消について触れてもらいたい。	第3章の【政策分野Ⅱ－1】「だれもが健康で安心して暮らせる社会づくり」の課題「(2)地域医療体制について」に、医療機関相互の連携の前提として、「地域によって診療科目等の偏在が生じている」旨記載している（p.58）。
15	2．ふくしまの基本方向	自然環境の保護と適正な利用	第６回	【取組みの追加】 （生物多様性の保全） 生物多様性の保全のために必要なこととして、里山、中山間地の農地の保全の文言を入れてはどうか。	第3章の【政策分野Ⅲ－2】「美しい自然環境に包まれた持続可能な社会の実現」の課題「(1)美しい自然環境について」に「里山や農地の開発の進展により絶滅危惧種が増加しつつある」旨記載している（p.64）。

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
16	3. 政策分野別の重点施策	農林水産業の持つ底力の発揮	第3回	【キーワードの追加】 農林水産業の担い手不足について、大きな柱になっている分野なので、子どもに対しての職業教育などの施策が必要ではないか。	【A-11】③「確かな学力の育成とキャリア教育の推進」のⅳに農林漁業者等との連携による職場体験活動の実施などについて記載した（p.75）。
17	3. 政策分野別の重点施策	社会性の育成	第4回	【キーワードの追加】 社会教育は非常に重要であるので、キーワードとして入れておいてほしい。	【A-11】②「豊かなこころ、健やかな体の育成」において、社会性、規範意識の育成について触れた（p.75）
18	3. 政策分野別の重点施策	高齢者の生きがいづくりと介護予防	第4回	【キーワードの追加】 キーワードとして「高齢者の活動支援」が示されているが、60歳以上の高齢者の働ける場づくりも非常に重要である。元気高齢者の取り上げ方が弱い印象を受ける。	【A-12】③「高齢者の生きがいづくり」、【B1-13】③「女性や高齢者等の就業環境の整備、就業機会の増加」において、高齢者の社会参加、起業、就業支援について記載した。
19	3. 政策分野別の重点施策	地域の特性を生かした働く場と収入の確保	第6回	【取組みの追加】 （業種転換への支援） 産業を発展させようという場合、建設業者や過疎・中山間地域に限らず、落ち込んでいる分野から他の分野に転換しようという場合に県が積極的に支援するという姿勢を示すべき。	【A-22】②「地域特性を生かした働く場と収入の確保」で過疎・中山間地域において建設業の新分野進出について触れているのは、過疎・中山間地域が公共事業への依存が高いことを踏まえたものである。 「業種転換への支援」については、意見を踏まえ、【B111】②ⅳ「中小企業の経営革新、業種転換や技術力の向上を促進する」旨記載している（p.42）。
20	3. 政策分野別の重点施策	経営力の強化による所得の向上、生産力の強化による食料自給率の向上、担い手の確保	第5回	【視点の追加】 生産力はある程度確保できているが、流通力に問題があるのではないか。流通力の強化を示せないか。	【B1-12】③「農商工連携、六次産業化などによる農林水産業の総合力の強化」で「多様な流通網の確保や販路の拡大、農林水産物の海外輸出の促進等について記載している（p.84）。
21	3. 政策分野別の重点施策	農商工連携、六次産業化などによる農林水産業の総合力の強化	第5回	【重点施策の柱立て】 農作物の地域内循環も考えないといけない。それを重点施策に位置づけるときに、重点施策の柱立てに入れておくか検討が必要である。	「農林水産業の持つ底力の発揮」において、【B1-12】①「生産者と消費者の絆の構築」の地産地消、【B1-12】③「農商工連携、六次産業化などによる農林水産業の総合力の強化」の県産農産物の活用として、農作物の地域内循環を具体的に位置づけた（p.83、84）。

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
22	3. 政策分野別の重点施策	生産力と経営力の強化による食糧自給率と所得の向上	第6回	【取組み内容の表現修正】 （農業産出額の増大等） 県内自給率の向上のためは、「農業産出額の増大」と「所得の拡大」という表現でしっかり示してほしい。 【取組みの追加】 （集落営農体の育成） 農家にはそれぞれの役割があり、認定農業者や農業法人も必要だが、同時に集落営農体の育成も必要である。	【B112】②「生産力と経営力の強化による食料自給率と所得の向上」で示している（p.83）。 また、「農業産出額」については、指標を設定することを検討している。 「集落営農体の育成」については、意見を踏まえ、【B112】②iii「集落営農の推進」として追加記載した（p.84）。
23	3. 政策分野別の重点施策	生産力と経営力の強化による食糧自給率と所得の向上	第6回	【取組みの追加】 （有機栽培の技術開発） 地域特性に対応した有機栽培に係る技術開発について記載してもらいたい。	意見を踏まえ、【B112】②vi「地域特性に対応した有機栽培等の技術開発の推進」として記載した（p.84）。
24	3. 政策分野別の重点施策	農商工連携、6次産業化などによる農林水産業の総合力の強化	第6回	【取組みの確認】 （地産地消など多様な流通チャンネル） 地産地消、地域内経済循環など、多様な販売、流通チャンネルを持つことが必要である。	地域内経済循環や地産地消については、【B112】に記載している。 また、意見を踏まえ、【B112】③ii「多様な流通網の確保」として追加記載している（p.84）。
25	3. 政策分野別の重点施策	農林水産業の持つ底力の発揮	第6回	【取組みの追加】 ②i「食料自給率の向上」とあるが、その実現のためには、消費者、需用者双方の理解と取組みが必要であり、「①生産者と消費者のきずなの構築」の例示として「地産地消の取組み拡大」、「学校給食・病院・企業食堂での地場産物活用率の向上」を表現できないか。	意見を踏まえ、【B112】①ii「学校給食、企業内食堂、飲食店などにおける農林水産物を核とする地場産品の利用促進」を記載している（p.83）。
26	3. 政策分野別の重点施策	農林水産業の持つ底力の発揮	第3回	【キーワードの追加】 新品種開発、温暖化対策 （理由）農業総合センターに期待される役割である。	【B1-12】②「生産力と経営力の強化による食料自給率と所得の向上」のviに「地球温暖化等に対応した新品種の開発の推進」について記載した（p.84）。
27	3. 政策分野別の重点施策	産業を支える人々の能力育成、チャレンジ支援	第4回	【キーワードの追加】 事業継承が問題となっている。また、中小企業庁でも事業承継に関する法律や支援が打ち出されているので、技能継承を含めた事業承継への支援というものを視点として入れてはどうか。	【B1-13】②「産業を支える人々の能力育成」のivで事業承継支援について触れた（p.85）。
28	3. 政策分野別の重点施策	国内観光の推進	第4回	【表現の修正】 国内観光と表現しているが、広域観光という表現、考え方が主流となっているので、広域的な観光の表現が必要ではないか。	【B1-21】③「広域的な交流・連携の推進」において、観光や物流などにおける東北圏やFIT地域、北関東・磐越5県などとの広域的な連携について記載した（p.86）。

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
29	3. 政策分野別の重点施策	災害に対して安全で安心できる社会	第3回	【キーワードの追加】 キーワードに消防団員だけでなく住民主体のリスクマネジメントやリスクコミュニケーションがあってもよいのではないか。	【B2-22】①「地域における地震などの災害に備えた防災体制の充実、広域連携による迅速な救助・復興体制の構築」において、地域住民、ボランティア団体、自治体の連携による消防・防災力の強化、ハザードマップなど、防災情報の充実と活用の促進について記載した（p.93）
30	3. 政策分野別の重点施策	環境への負荷の少ない低炭素・循環型社会への転換	第6回	【取組みの追加】 環境の取組みは、国の大きな枠組みの中で、地方の独自性や実現可能性を考慮し県レベルでの政策を位置づけるべきであり、「国内クレジット制度」は、国家戦略として重要な位置づけであることから、その利用促進や支援拡充について、取組みに追加すべき。	意見を踏まえ、【B322】②「産業、行政、学校、家庭における省資源・省エネルギーの取組みの推進」のⅳで「カーボンオフセットの取組みの促進」を、【B322】④「森林環境の保全と森林資源の積極的な活用」のⅳで「森林の二酸化炭素吸収量の認証制度の活用など企業や団体等による森林整備活動の促進」を記載している（p.98）。
31	3. 政策分野別の重点施策	環境への負荷の少ない低炭素・循環型社会への転換	第6回	【取組みの追加】 ②ⅲ「フード・マイレージの取組みを促進します。」としているが、地産地消の取組みは環境面からも貢献することを、県民に理解してもらうため、「地産地消等を通してフード・マイレージの取組みを促進します」という表現にしたらどうか。	意見を踏まえ、【B322】②「産業、行政、学校、家庭における省資源・章エネルギーの取組みの推進」で、「地産地消によるフード・マイレージ、ウッド・マイレージの縮減」を記載している（p.98）。
32	3. 政策分野別の重点施策	施策の達成度を測る指標	第5回	【指標の設定方法】 62の取組みがあるからといって、それに1～2個指標を設定するというよりも、県民に分かりやすいものを絞り込んだ方がよい。	指標の中でも、特に県民に分かりやすいものについては、代表的な指標として区分して整理する方向で検討したい。
33	3. 政策分野別の重点施策	施策の達成度を測る指標	第5回	【指標の設定方法】 重点施策でどれくらいよくなったか、意識調査などでどのくらい改善できたかが見えるようにすべきではないか。できれば5章ではなく3章に関する評価がほしい。	県民の意識・行動調査の結果などを含めて、指標は、施策の進行状況を把握するためのものとして、第5章に記載することしたい。
34	4. 地域別の重点施策	全般	第6回	【圏域内の市町村の連携】 平成の大合併後、市町村間の連携が弱まっているように感じる。県としての大きな役割は、7つの生活圏を充実させるために圏域内の市町村が連携できるような状況を作っていけるかどうかであり、圏域共通の課題を振興局でも把握してもらいたい。	意見を踏まえ、第4章「基本方向の実現方策」、「1　計画推進に当たっての考え方」、「(2)市町村に期待する役割」に市町村間の連携を記載している（p.70）。 　また、「(3)県の役割と姿勢」に「市町村間を調整する役割」を追加するとともに、「市町村が連携しやすくなるよう努める」旨記載している（p.70）。
35	4. 地域別の重点施策	七つの生活圏	第7回	【七つの生活圏の基本的考え方について】 七つの生活圏の基本的考え方を全国や県民に向けて主張するため、①地域の個性を生かすということと同時に②地域間の格差を是正するということを第3章だけではなく、第6章の始めでも繰り返しにならない程度で触れた方がよい。	第3章において、七つの生活圏に基づく地域づくりの基本的考え方として、①地域の個性を生かすこと、②生活圏単位で基本的な住民ニーズに対応できるようにすること、③生活圏を超えた機能の補完・連携を進めることを記載した（p.66～67）
36	4. 地域別の重点施策	地域区分	第7回	【地域区分について】 　福島県を象徴するのは、浜・中・会津であり、その方が括りやすい。三地方の課題を示した上で、七つの地域ごとの課題を整理すべきではなかったか。	現時点では、七つの生活圏は、県民に浸透しているものと考えられるため、今回の計画期間（5年間）においては、七つの生活圏をベースにして、整理することとしたい（p.66）。

整理番号	該当項目（各部会での資料ベース）		部会	意見等の内容	中間整理案（案）での対応
37	4. 地域別の重点施策	現状・特性、課題	第５回	【内容の追加】 会津と南会津に「電源立地」のキーワードが入っていないが、相双には課題として入っているので、合わせて課題として入れた方がよいのではないか。	会津については「阿賀野川水系での水力発電」（p.116、118）、南会津については「只見川水系を中心とした水力発電」（p.120、123）について記載した。
38	4. 地域別の重点施策	いわき地域	第６回	【取組みの追加】 （工業団地への企業誘致） 誘致企業が育つような環境づくりについて記載してもらいたい。	施策の展開方向「創造的で活力のある産業の展開」の重点施策で、研究開発力・技術力の強化や高付加価値化を図る旨記載している（p.130）。
39	4. 地域別の重点施策	いわき地域	第６回	【取組みの追加】 （地産地消） いわきは巨大な消費人口、長い日照時間、標高差等の好条件があるので、多彩な農産物の提供について記載できないか。	「創造的で活力のある産業の展開」の重点施策で、温暖な気候を生かした特色ある安全で安心な農産物の生産拡大や消費拡大に向けた取組みを進める旨記載している（p.131）。
40	5. 基本方向の実現方策	計画の進行管理	第５回	【記載内容の検討】 計画の推進に関して、地域で議論できる場があると、計画に注文を付ける機会ができてよいのではないか。	第4章「３　実効性の確保」で、「毎年度、各地域で県民との意見交換の場をつくることなどにより、地域の声を計画の進行管理に生かしていきます。」と記載した。
41	5. 基本方向の実現方策	計画推進にあたっての考え方	第６回	【県民、市町村に期待すること】 計画の実効性の確保のためには、「県民の役割」、「市町村の役割」としてよいのではないか。	意見を踏まえ、「県民に期待する役割」、「市町村に期待する役割」に表現を修正した（p.70）。 　なお、あまり押しつけをすることはできないため、「期待する役割」と表現している。
42	5. 基本方向の実現方策	実効性の確保	第６回	【地域の声を踏まえた進行管理】 地域懇談会を踏まえると、このプロセスは重要である。この項目が了解されれば、県民や市町村と課題を共有するプロセスを計画の進行管理に組み入れられるのではないか。	地域懇談会については、今後、進行管理の一つのプロセスとして組み込むよう検討していく（p.71）。
43	6. その他	全体	第４回	計画の推進にあたっては、将来の子どもたちのためにも納税など県民としての責任と義務を果たすことが前提であるということも文章の一部に付け加えてはどうか。	納税に限らず、県民全体で地域を支えていくことについて、第4章に「県民に期待する役割」として記載した（p.70）。